



100<sup>th</sup>  
Anniversary

三ツ星ベルト創業100周年記念コンサート



# ウィーン・サロン・オーケストラ ニューイヤーコンサート2019

音楽の都ウィーンで抜群の人気を誇る名門オーケストラ 優雅な響きが新年を彩る



©K.Hayashi

Salonorchester Allt Wien

New Year Concert 2019



©K.Hayashi

ウド・ツヴェルファー  
音楽芸術監督・コンサートマスター



©酒寄 克夫

久元 祐子  
ピアノ

## PROGRAM

W.A. モーツァルト：  
ピアノ協奏曲 第 26 番 ニ長調 KV 537「戴冠式」

J. シュトラウスⅡ：  
オペレッタ「こうもり」より  
ワルツ「美しき青きドナウ」  
皇帝円舞曲 他

※曲目・曲順が変更される可能性があります。予めご了承ください。

2019.1.6 日 開演 19:00 (開場 18:15)

神戸文化ホール 中ホール

JR「神戸」駅・神戸高速鉄道「高速神戸」駅下車約10分、神戸市営地下鉄「大倉山」駅下車すぐ

全席指定(税込) ※未就学児入場不可

SS席:10,000円 S席:7,000円 A席:5,000円

チケット取扱 ※文化ホール友の会先行 8月3日(金)  
※一般発売 8月9日(木)

神戸文化ホールPG 078-351-3349  
チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード:117-778)  
ローソンチケット 0570-084-005 (Lコード:53931)  
CNプレイガイド 0570-08-9999  
イープラス <http://eplus.jp>  
神戸国際会館 078-230-3300

主催

ウィーン・サロン・オーケストラ神戸特別公演実行委員会

共催

(公財)神戸市民文化振興財団 神戸文化ホール

特別協賛

三ツ星ベルト株式会社

お問い合わせ

神戸文化ホールプレイガイド TEL:078-351-3349

# ウィーン・サロン・オーケストラ ニューイヤークンサート2019

壮麗、優美、華麗・・・薫り高きウィーン伝統の音楽で晴れやかな新年が幕を開けます！

ウド・ツヴェルファー Udo Zwölfer

音楽芸術監督・コンサートマスター

ウィーン生まれ。ウィーン国立アカデミー（現ウィーン国立音楽大学）、及びウィーン市立音楽院（現ウィーン・コンセルヴァトリウム私立音楽大学）に学ぶ。在学中より、多くの著名な芸術家と数多くの演奏活動を行い、ウィーンをはじめ、フランス、イタリア、チェコ、クロアチア、韓国、台湾、中国、アメリカ、日本等への演奏ツアー等、精力的に活躍している。1980年に、フォルクスオーバー・ウィーンの第1コンサートマスターに就任。94年、フォルクスオーバー・ウィーン所属のオーケストラ奏者で構成された“ウィーン・サロン・オーケストラ”を設立。99年にはウィーン・クアサロン（かつてヨハン・シュトラウスⅡ世が自ら演奏し活躍した、ウィーンに於ける彼の本拠地であった歴史的施設）の現支配人であるS. ススニャーラとオーケストラのコラボレーション契約を交わし、同オーケストラの演奏活動を本格的にスタートさせた。ツヴェルファーは、初代音楽芸術監督に就任、同時にコンサートマスターとしてオーケストラを率い、現在までに、オーストリア国内外にて4000公演以上のコンサートを成功させている。使用楽器は、1774年のイタリア・ナポリ製、トマツ・エーバレ社のヴァイオリン。

ウィーン・サロン・オーケストラ Salonorchester Alt Wien

1994年ウド・ツヴェルファーのもとウィーン・フォルクスオーバー交響楽団のメンバーらにより結成された。世界中からウィーンを訪れる人々に本物のウィーン音楽を、本場の雰囲気、一流の音楽家たちによる演奏で提供しようとの狙いのもと設立。

レパートリーは、ウィーンを代表する作曲家であるヨーゼフ・ランナー、シュトラウス一家、カレル・コムザーク、カール・ミヒャエル・ツィラー、フリッツ・クライスラー、エメリヒ・カールマン、フランツ・レハール、ロベルト・シュトルツなどの序曲、ワルツ、ポルカやマーチ。またヨハン・シュトラウス2世の代表的なオペレッタ「こもり」、「ジプシー男爵」、「ヴェネツィア一夜」、「ウィーン気質」、レハール「メリー・ウイドウ」、カールマン「チャルダシュの女王」、「伯爵令嬢マリツァ」、カール・ツェラー「小鳥売り」、ミレッカー「乞食学生」、「ガスパローネ」などからの有名なアリアやデュオなど、非常に幅広い。

ウィーン伝統音楽の継承にも力を注ぐ一方で、アルバート・ウィリアム・ケテルビー、ルロイ・アンダーソンなど新しい作曲家の作品も意欲的に取り上げている。主なレパートリーは19世紀初頭の伝統音楽にしっかり根ざしている中で、聴衆が求めるプログラムには柔軟に対応。ミュージカル、映画音楽、ダンス音楽、民族音楽などプログラムは多岐にわたる。

ランナーやヨハン・シュトラウス一家の伝統を継承し、ウド・ツヴェルファーがヴァイオリンと指揮の弾き振りをするスタイル。演奏者同士の緊密なコミュニケーションと楽しい演奏スタイルは、聴衆をも幸せに満たすような抜群の雰囲気、ホールを包み込む。

ウィーン楽友協会ホール、ホーフブルク宮殿ホール、国立図書館ホール、ウィーン証券取引所祝祭ホールなど、ウィーン各地でコンサートを開催。1998年以降、ウィーンにおいて年間300回を超えるコンサートを開催するなど、抜群の人気を誇っている。

2001年由緒あるウィーン・クアサロンがリニューアル。ウィーン・サロン・オーケストラは、ヨハン&エドゥアルト・シュトラウス、フランツ・レハール、ニコ・ドスタルなどが演奏を行ってきたこの伝統のホールを拠点とし、聴衆、批評家たちから圧倒的な支持を得ている。これまで度々日本ツアーを行い、2004年には、中国、またカリフォルニア・ロング・ビーチでも公演を行い、大好評を博す。

久元 祐子 Yuko Hisamoto

ピアノ

東京藝術大学音楽学部（ピアノ専攻）を経て同大学大学院修士課程を修了。

ウィーン放送交響楽団、ラトビア国立交響楽団、読売日本交響楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、ウィーン・サロン・オーケストラ、ベルリン弦楽四重奏団など、内外のオーケストラや合奏団と多数共演。

知性と感性、繊細さとダイナミズムを兼ね備えたピアニストとして高い評価を受けている。音楽を多面的に捉えることを目指したレクチャー・リサイタルは朝日新聞・天声人語にも紹介される。

ブロードウッド（1820年製）、ベーゼンドルファー（1829年製）、プレイエル（1843年製）、エラール（1868年製）などのオリジナル楽器を所蔵。歴史的楽器を用いての演奏会や録音にも数多く取り組み、それぞれの時代の中で作曲家が求めた響きと美学を追求する。

2010年、ショパン生誕200年記念年には、全国各地でプレイエルを使つての演奏会に出演。軽井沢・大賀ホールにおいて天皇皇后両陛下ご臨席のもと御前演奏を行う。2011年ウィーンでのリサイタルは、オーストリアのピアノ専門誌の表紙を飾り、日本人で唯一ベーゼンドルファー・アーティストの称号を受ける。

2012年、2014年、2017年にはイタリア国際モーツァルト音楽祭に招かれリサイタルを開催。その模様はイタリア全土に放映され好評を博す。

これまでCD13作をリリース。「優雅なるモーツァルト」は毎日新聞CD特薦盤、レコード芸術特選盤に選ばれ、「ベートーヴェン”テレーゼ”ワルトシュタイン」はクラムフォニ誌上で「どこからどう考えても最高のベートーヴェン」など高い評価を得る。

著書に「モーツァルトのピアノ音楽研究」（音楽之友社）、「モーツァルトはどう弾いたか」（丸善）、「原典版で弾きたい！モーツァルトのピアノ・ソナタ」（アルテスパブリッシング）、「モーツァルトとヴァルター・ピアノ」「ショパンとプレイエル・ピアノ」「リストとベーゼンドルファー・ピアノ」（学研プラス）など多数。

国立音楽大学教授、ベーゼンドルファー・アーティスト、日本ラトビア音楽協会理事、PTNA（日本ピアノ指導者協会）評議員。

久元 祐子ウェブサイト <http://www.yuko-hisamoto.jp/>